

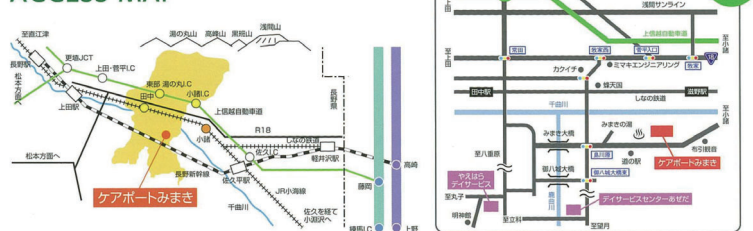
ケアポートみまき

見学日：2016.11.25

敷地に温泉、道の駅、運動場などがあり地域コミュニケーションの拠点であり、保険・医療・福祉の総合施設である。施設全体を有効利用するため、保険・医療・福祉の窓口を一本化した総合相談窓口を設けてサービス提供を総合化している。広場に面して利用者や訪問者の目的別に4カ所の玄関があり、内部が全て接続している。ほぼ平屋で計画することで連携がしやすく職員が分離しないようにしている。

1995年の開所から地域のニーズに合わせて改修を行い施設を変化させてきた。

ACCESS MAP




社会福祉法人 みまき福祉会

〒389-0402 長野県東御市布下6-1 TEL.0268-61-6001代 FAX.0268-61-6003
URL <http://www.cpmimaki.or.jp>

特別養護老人ホームケアポートみまき	TEL0268-61-6005	ほのぼのホーム	TEL0268-61-6165
ショートステイケアポートみまき	TEL0268-61-6040	ホームヘルプステーションみまき	TEL0268-61-6020
デイサービスセンターきたみまき	TEL0268-61-6022	ケアポートみまきマネジメントセンター	TEL0268-61-6125
デイサービスセンターあぜだ	TEL0268-67-1160	温泉アクティブセンター	TEL0268-61-6006
やえはらデイサービス・みはらしの郷	TEL0268-67-1555	在宅総合支援センターみまきの家	TEL0268-61-6000

↑アクセスマップ

↑法人理念



法人理念

『いつまでも すこやかに
生き生きと 安心して
暮らし続けたい』
その願いをかなえる核となります。

社会福祉法人 みまき福祉会

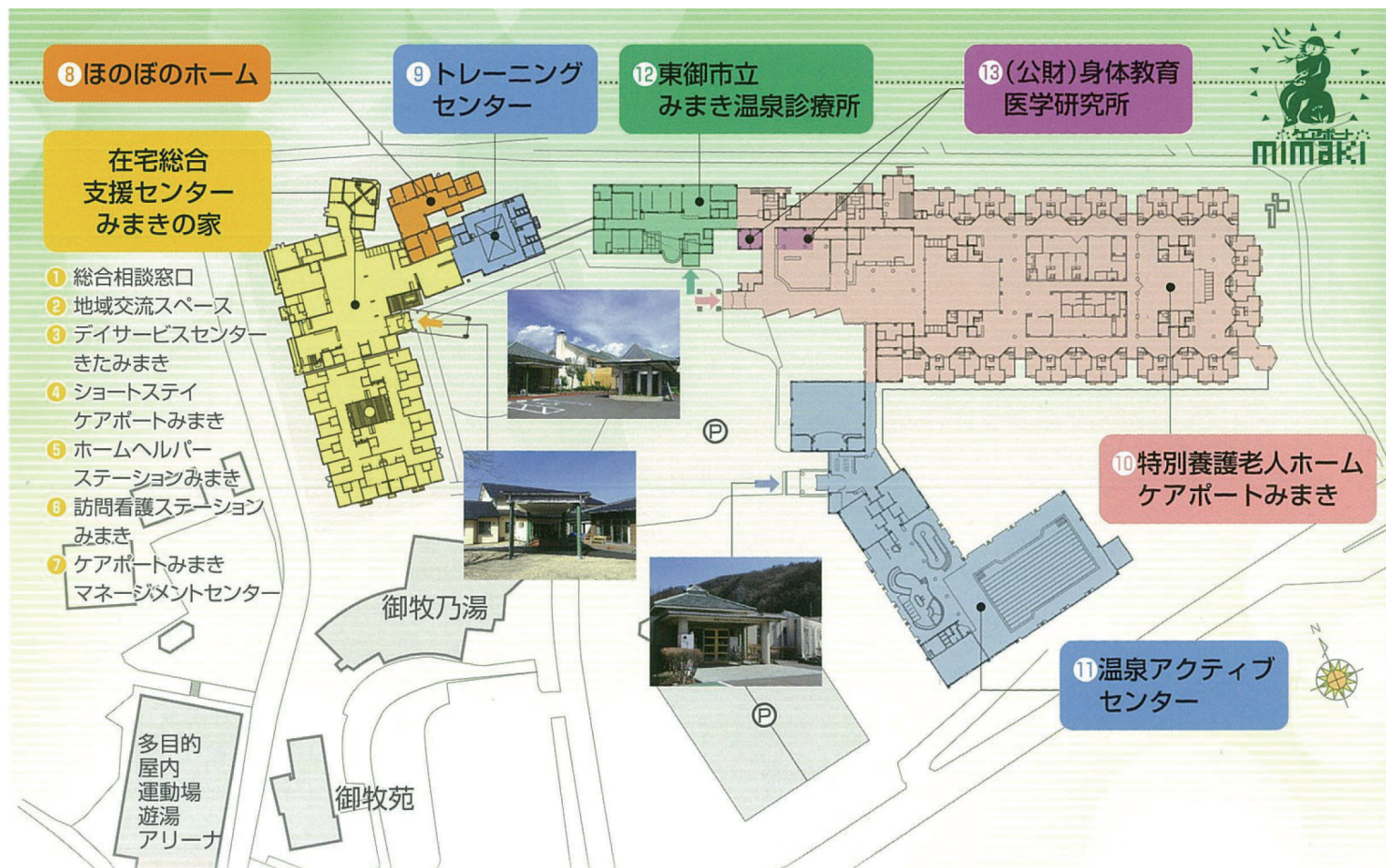
ケアポートみまきは、高齢化社会を迎え将来を展望するなかで、自立自助の精神で、すべての人が安心して住み慣れた地域で暮らせるために、地域住民の皆様の熱意が結実したものです。

「保健・医療・福祉」の総合施設として財団法人日本船舶振興会(現 日本財団)地域福祉創造プロジェクトのケアポート事業モデル第3号として平成7年に建設されました。

基本理念の達成に向けて

- お客様を大切にすること
- 心のごもった笑顔と言葉遣いをする
- 安全、安心に向けた取り組みを進めていく
- 支ええられの精神を常にもって行動すること
- 職員が生きていきと働く職場づくりを目指していく

これらの精神に立ち返りながら、ご利用者やご家族そして地域の皆様からケアポートみまきのサービスに、ご満足頂けるよう職員一丸となって取り組んでいきます。



↑施設全体像

・在宅総合支援センターみまきの家

ホームヘルプステーション、訪問看護ステーション、マネージメントセンターなど、在宅のサービスを集約している。

・地域交流スペース

様々な地域活動やボランティア活動のための空間で、天井が高い。

デイサービスも同じ空間でサービス提供している。

・総合相談窓口

保険・医療・福祉すべての相談を受け付けている。

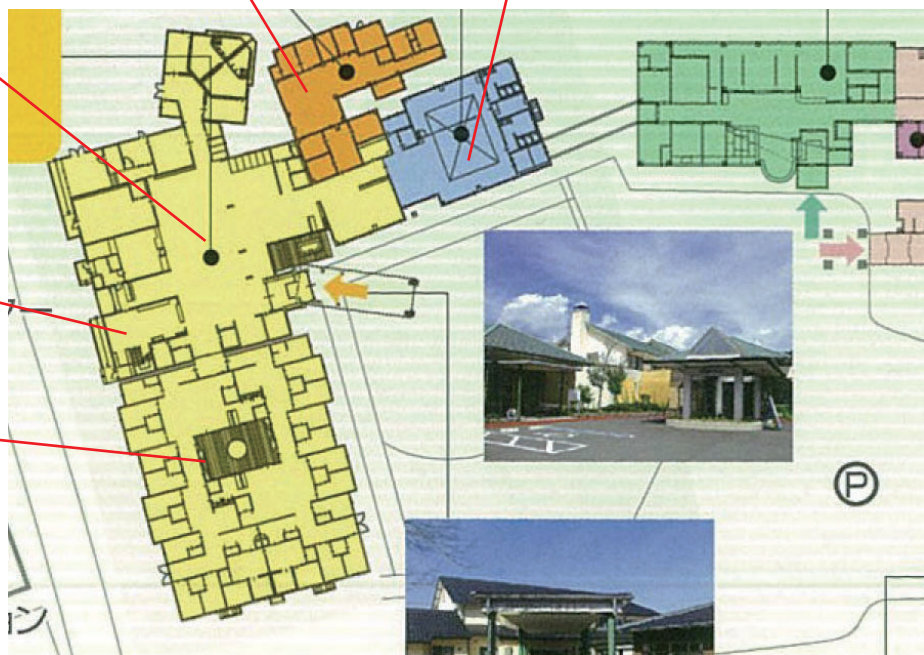
・ショートステイ

20床の全室個室で看取りの場としても利用できる。利用は1か月までと期限を設けている。

・ほのぼのホーム 9床のグループホーム

・トレーニングセンター

一般の利用者もいるが、デイサービスで使ったり、グループホームの人が使うこともある。



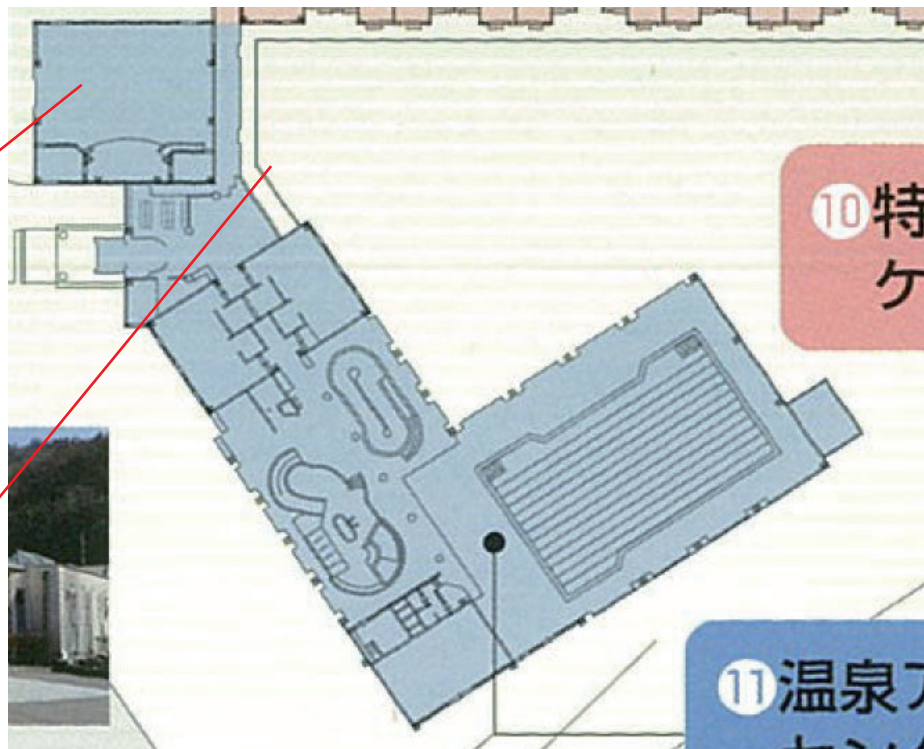
・温泉アクティブセンター

温泉とふれあいホールがあり、サービスとしては一般利用、健康教室、リハビリや運動の団体指導や個人指導を行っている。プールは5800（円／月）で利用できる。見学時にも多くの利用者がいた。



↑ふれあいホール

多目的な利用がされており、特養入居者や地域の人が発表会やスポーツをしたりしている。一般の人向けに時間貸しも行っている。



←中庭テラス

地域を巻き込んだバーベキューなどが行われる。元々は芝生だけの場所だったが、車いすでも通りやすいようにパスが作られた。



・特別養護老人ホーム ケアポートみまき

66床のユニット型（全室個室）で入居者の平均介護度は3.9。各ユニットで連続した空間でつながっているため、ユニット間の連携がしやすい。においてはトイレで抜けるように計画されており、快適な居住環境が守られている。北側の居室からは浅間山が見える。また、照明や壁の色が全室で違い、以前は表札もボランティアの人が彫って作っていた。



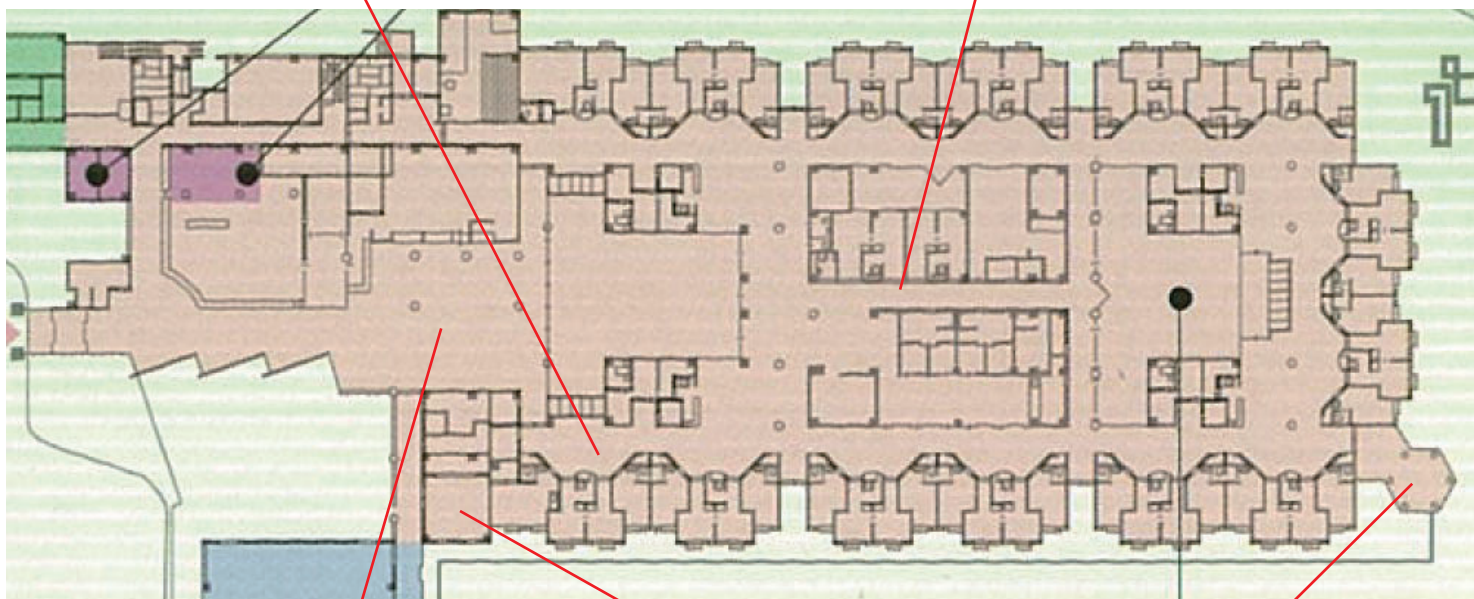
←個室前

図面上の真ん中で合わさっている部屋はトイレが共用になっている。室内の家具や個室前に飾ってある植物などは入居者の持ってきたものである。



←真ん中の廊下

天上から採光を取っているため、明るい通路になっている。写真左手側は元々重度介護室であったが、現在は個室になっている。



↑レストラン

地域に開く目的で設けられた。入居者の食事はここで作られ、各ユニットに運ばれる。アクティブセンターの利用者や職員が利用している。今後は障害者の就労支援を計画している。



↑工芸室

現在は台所、テーブル、椅子が置かれた部屋だが、将来は職員の託児所にする計画がある。



↑サンルーム

看取りの場所や入居者の家族の居場所として使える六角形の部屋。建物の南にあり、明るい空間で眺望も良い。

・まとめ

地域住民のニーズに応えている施設で、入所施設の入居者が閉じこもらないような建築計画や運営の配慮がされている。地域住民が利用できる場所も充実しており、地域拠点として機能している。また、（公財）身体教育医学研究所が入っていることで、施設の発展がしやすくなると考えられる。

今後、ボランティアの呼び込みなどを強化し、地域住民が施設を発展させ、それがまちに広がっていくようになる展開を期待したいと思う。